号 12

地 造成を記念し て親鸞聖人行脚像建立を発 定例世紀

お用写写

できるよう

切

ほ

意を整え

いでを

待ちしております。

一会議にはかり福井市林大仏堂を通じて京都の岩沢 墓 の梵鐘㈱で鋳造 話 方総



脚された御苦労をし またお 光石布 石石材工 らす。 り下 L 画 線香 0 0 積 げ

日

日

のぶよすがとなる行脚像、い高台、そのかみこの弥彦

分骨して納骨を希望される方、

を教化の 現場は弥彦山系

行

納経塚として建立 かみこの弥彦周辺

まし

た。

皆様の御協・

謝い

たし 90番 町

ま X

8月1.7日

23

月

10 月

系を仰ぐ見

はら

もと行 万二千円、

脚像を新墓地 力を深刻

施 工吉

田

武

掘 12

彼

本山御布教

など写経して納めたい

方はお気軽

に寺までお申

五月

末までに竣工

全

事費六十八

立み四

が大力十四日間

行脚

像に

あ わ 仮

せ自然で素朴な感じを基調

本堂

向

拝に

安置、

御 台座

は白

ミカゲ宝

月

を前

き、 上げ、

納

納経のできるように基礎部分を深く

各座の上に安置いたし 務店)六月五日林大仏!

六月五日林大仏堂立合いの

記録をもとに、目像に納めるため、 慶の法要を厳修りの永代経法要のお ました。 名録の浄書作業をつ された仏の法名を行 0 けております。 現地落慶法要・ 方々のお参りを頂き 永代経法要に 、写真は現地落慶法要 現地で開眼落 目 下寺の脚 寺 つと 十月月

盆参法 岸

報 講 11月 7.8日 恩 鐘 31 日 法 月 20 毎

皆様お誘い合わせ、お参り下さるよう御案内申し上げます。

先 が け て下されてこそ

2

本

17

足

を

仏の声れて 1 声味 と私は ンと私の さる、 7 ち上 促 を 味 心 7 3 明ら 私に 私が があっ 雲 0 0 頂 1) 3 心 私 ね 11 5 から 郷 る。 14 った 月 から 早 から 17 7 0 00 信 か を思う ではな 先が < L はな 7 如 n 11 心 ず 17 九 はないかな手を含めているが 来さま するの 早く 7 」という言 Bol < 喚ょの H び 弥 H 法 た 17 は 2 早く 7 心 0 11 かな手を合わ か 8 陀 は 昔 Щ 下され あ が講。 から 17 17 味 か H 0 如 差 なと 気づ 称える。 来がら 先 わ 7 5 向 なくて 11 から 葉 11 梵 御 いう てててそ、 11 け 心 か か 起 7 7 か 鐘 布 てくれ 如く ち上 7 あ 17 講教 11 静 御 下 さる、 る。 鐘 0 する」とい がの ると思うけ、 れよといる 私がおる 響く。 がっつ 私 0 勤中 鐘 音 まっから 0 がはるの てい た 忘れ 7 8 た念 才 意 17 7 5 0 11

とに 14 ま を 0 称 がの な

いうこと。 う、 喚びかい 私 0 える身に 念仏を で、 ますと、 け というこ 参ってく 称えて 17 応え 来

なく n よう、 17 届 て、 先 て、 手 から を かけてい はじめ 合 わ 世 てく て手を合 7 さる n ようとい わ 如 来さま せる身に 5 0 0

> 5 3 2 感 7 他運 ぶた 肝 U 1) n ま 力 取るこ 要。 るよろこび 0 7 な から 11 17 う大 5 1) とが H つ 0 き K 中 を を な 何 17 より 早 送 生 如 2 か 来 0 0

> > 17

3

は

<

L

さま 4 れ助 わは、 お アミダブツと頂 て たし られる。 か 妙 お念仏 つてく 好 やあ 人浅 御恩尊とや 17 れ なた人如 0 原 ま 才市 よと れ 11 7 わ 1) 頼 れ ノナ を 7 来 ま



「私」をひっくりかえす 力

0 -5 源 川遠城師 布教大会 17 対し て深 布教大会 い寿 0 世界 世界がある 浅 0 11 御 命 布 る。 0 教 (からだの か 11 仮 0 5 り ち 0

1)



迦 す

様 3

の世

涅ね界

槃んが

る。

0 あ

沙 お

頭

たが見

てく

N

な

私

た

8

ま

た

お

てころ

のち

は 0

くも でござ

9

てくる

す。

本当の

寿に

(法) 0 との 1) 0 双 5 几 樹 四本は伸びた。

は亡

んだだ

か

心

本仏 年か 0 17 をて 子 あ を わ L わ 世 から 悲し 平 7 き人は 0 頂 3 け 亡き人 命とひき 深 太 < のちを 0 き人 母 7 を か 賜 2 え 0 0 歌 0 L 17 心 7 尊 を 私 11 岡がおえ

るであってあって っべがい親のきなたで本に鸞はな う境 る。 5 L き不年上 たという満足がて受け身、後の 本願。本願。 かっ しな 頼 生 思 毎の なみもし 気づ きとし 聖人 たら 地、 0 11 議 に句よ毎 大きな・ た。 とほ 11 私は ょ た き、 よく 7 0 生 か から 下 17 下 0 0 まれて 大きな 自 あ な 17 れ 0 た 0 悲しみは深 華 から 1) 後手 力が 11 ると今まで見 う 1) 親 た。 ぼ わ 我 り 句 8 かるが 0 世がの から から 0 4: 他 ~ 0 2勝手に 死んで たい ない。 力に 否 界に 17 後手のわが身。 聖人 ちが芽生えて とした喜びが 力 400 11 とは 飛躍 2 る。 0 人をひっくりかえして遇うて自分中心の てと、 5 下 1) くなってくるけ うけ 歩 私を生んだ……し いつも不満足。 11 如 2 ts 12 0 く人間 は自分の えない 踏 句 来 0 n 0 み込 とは す 0 が、 け n 切を投 か 本 お わ これ てが む。 矛盾 つ 0 願 本 0 9 11 よう てきて 力 力 願 ま ナム 生、 でよ の間 力、 では すと げ お L な れ व る。 か捨 与 私 た 0 すえはかみかす力違∨ げ 法 0 1)

辞 世

くに在りて夕陽おろがむ りがたや祖師をしたひて逝く道 長崎 義祥 十歳 は

が辞世を謹詠され六月十日の落慶法要に当た り行脚像に納められました。 松井信市郎さん(法名

の中間報告

万八千 お の御懇念に厚く御礼を申し上げます。 1) 旨 17 福 円の御懇志を上納していただきまし をお伝えし御台座建造 |寺だより11号で親鸞聖人行脚像建立を発願 0 いたしましたところ七月八日までに五十八 いて趣旨に御賛同頂ける方々の御懇志 I 事(予算約 八十 を 万

金壱百万円 鸞聖人行脚像 恵 金壱万五千円 鸞聖人行脚像銘板 武 石 材 店

御台座 懇 志

京 金五万円 榎 坂 幸 子

区小 金参万円 吾

村山 金弐万円 金弐万参千円 武石和左工門 (代表 菅

高 八 子 一金壱万参千円 一金壱万参千円 小林治右エ門 坊守 柏 原 夫子

弥 横 浜 一金八千円 武石新力 一金壱万円 山太安 岸 田岡 彩 文 郎子子

一金五千円 武石 八子喜 石 栄 太 左 門次六 門

夫

区

左

吉神仙田奈台川 長横 浜

七月八日までの上納 X 金壱千 熊谷甚左 菅 細 近 X

X 武石 九

境江

熊谷 九 川 助 浦

武木和林堀 歌部内 門七郎郎門門助工門門八門蔵郎門助郎七工門門

武石半 浦 左

本 Ш りと 御 10 蹟 巡 拝 の 旅

堂、

蓮

院、

知

恩

寺、

比

叡

T 住 参 職 御 口 六 拝、 バ 月 本 ス Ш 坊 0 守 H を か 日 5 Ш 8 三 様 研 修 は 日 新 夕 門 0 17 -名が参 様 宿 方仏光寺 か を囲 泊 け 7 二日 加 広 h 御 福 0 新 記 目 本 念写 は 廟 潟 交通心光 に参 お 真 あ 拝 3 I

ら出 心 参 布 3 本 部 た吉田 から 加 教 Ш コ 中角 を 堂 発 すること 無 参 御 1 まで 厚く御礼を申 聴 事 り を 坊 ス をめ 聞 を 町 帰 0 8 î 格 変 0 着 宿 4. 旅行 ぐり 别 から 更 願 0 まし 大師 芦 を 0 できまし L 終始 お 果 才 原 社 堂 世 た た。 1 温 し上げ 「越 話 なご プン 御 L 泉 内 た安 後 2 た。 本 泊 Ш ま 陣 P 直 1 サ ま 7 ラベ 堵 り す 0 で か 後 0 清 は E" 0 17 0 スを 胸 談 旅 御 越 ル 掃 をなで の奉仕 笑し 法 前 日 話 大仏、 5 頂 目 きま h 画 17 0 は山 か \$ 御 お 17 0

駐

車

1

御

協

力

墓

り

0

本

0

参道と

庫

裡 を

0

通 事

路 8

0 お

0

駐 参

車

は

御 時、

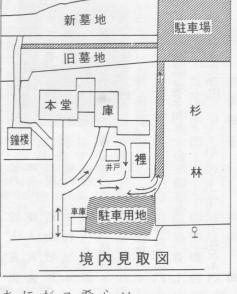
遠

慮

お 墓参りが近 きま

御 旧 協力を頂 地 西 側 事 き参道 参道 費 0 六万八 整備舗 0 整備舗 T 装 装 百 Ŧī. I 部 + 事 円。 を 墓 す 0 移 す 8 築

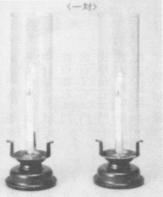
17



L 墓 墓 費三 地 造 北 庫 + 裡 事 用 0 万 5 車 車 Ŧi. 5 0 0 to 百 0 川、 通 8 整 駐 備 0 車 奥 場 に当 用 11 0 地 た を 組 1 P ま 地 かす。 ま

杓 墓 さるよう 墓 を十 参 地 一用手 御 0 水 個 利 桶と樋 御 用 道 用 協 意 0 0 ところ 力 杓 願 ま ま たもとに 11 に備 た。 直 ま す。 径 22 え 庫 7 お 裡 七 返 1 見 お 0 き 井 チ 取 ま 0 义 戸 1 手 参 3 す 屋と 桶と 0 照 お

気 新



144-4 御心灯 ローソク立セット B ガラス製ホヤ 12.5 cm 2個で…3,300円 1個で… 1,800円

あと カジ スの 希望 なく ク 灯 切 火屋 0 がよく消え 0 1 方は寺ま 消 便 7 案特 除 利 つ え き。 0 な から 1 す。 許 簡 1 (1 単 7 お 0 7 口 を若 寸 7 14 お 木 17 1 ります。 ソク立 ル 壇 申 す 0 3 下 111 17 L とり ま 17 ホ 使 出 敷 1 0 1 よ ても火災 3 風 墓 1) ル 世 17 参 を 1) まし 0 お ホ 消 0 きます えな 耐 t た。 の心 き 熱 0 ガラ 丸 11 西己 御 御

行所 福 寺 9 5 9 0

新潟県西蒲原郡弥彦村大字麓6590

刷 7 ノウ印 刷